

平成 26 年 12 月 13 日

南 の 風 9 3

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

92号の続きです。

繰り返すようですが、トーナメントは負ければそこで終了です。リーグ戦に慣れているチームにとっては頭の切り替えも必要です。ストラテジーよりもタクティクスが大事になります。目の前の一戦を全力で勝ち取らなければならないからです。私が観戦したゲームで言えば、B大学のタクティクスが功を奏したということです。

ディフェンスでは、A大学のガードにプレッシャーを掛け、ボール運びを思うようにさせずに、確率の悪いシュートをさせるという戦術がはまりました。A大学は1ピリで、「思うようにオフェンスができない。」と感じたはずです。そして、終始ボールマンプレッシャーディフェンスをやり続けたことがB大学の勝因の一つでした。

一方オフェンスは、ドリブルパンチングからのショットや、外への合わせからの3ポイントショットを打ち続けたことが勝利に結び付いたと思います。サイズではA大学に劣るB大学は、オフェンスにぶれがなかったです。「私たちは、こう守って、こう攻撃するんだ!!!」という強い意志を感じました。迷いが無い分3ポイントショットもよく決まっていた印象でした。

オールジャパン出場をかけたゲームで、B大学は会心のゲームができたのではないのでしょうか。

このゲームを観戦して、私自身たいへん勉強になりました。

まず感じたのは、何と言っても『**この一戦**』を戦う時の『**徹底することの大切さ**』です。このことは、選手やスタッフが目的を共有して取り組んだからこそ、できた結果だと思います。

次に、『**運びの大切さ**』を痛感しました。これはミニバスともリンクするのですが、しっかり運んでしっかりエントリーするという事です。不用意なドリブル、ボールの持ちすぎなど、オフェンスのリズムを崩すプレーを排除して、如何にシュートにつなげるかということです。そのために、オフボールマンの動きが大切になります。相手のプレスやタイトなディフェンスに対して経験の少ないミニバスのゲームでは、ボールミートやシェーピングといった、ボールを持たない時のスキルを身に付けることの大事さを、改めて感じました。

最後に『**シュートの決定力**』です。シュートの決定力をあげるための特効薬はありません。スキル的には自分に合った、理にかなったフォームで集中して打ち込むこと以外にありません。このゲームを観て改めて感じたことは、『**踏ん切りよくスパッと打つ**』ことです。B大学のシューターは迷いなく打っていたと思います。(本当のところはわかりませんが) 3ポイントラインより1m位離れたところからも迷わず打っていました。それは、上記したように「私たちはこう攻める」という意志が、はっきりしていたためではないのでしょうか。

B大学は、「ここ一番のゲームをどう戦うか」といった戦術の一端を示してくれました。また、我々指導者に、自チームより実力が上だと思われるチームと戦う時の戦術についても、サジェスションしてもらった気がしました。

それではまた次号で。